

### 整備局らがコンソーシアム設立

# 現場と技術を橋渡し

## インフラロボの導入促進

中部地方整備局と日本建設機械施工協会中部支部は21日、中部圏インフラ用ロボットコンソーシアム(代表・福田敏男名城大理工学部メカトロニクス工学科教授)を設立した。産学官が一堂に会し、社会インフラ用ロボットの情報を交換し、ロボット産業と建設産業の交流を促す全国初の取り組みとなる。同日、名古屋市中区の桜華会館で第1回会議を開催し写真。100人以上が参加し、今後の活動方針などを審議した。



冒頭、八鍬隆局長は「国土交通省では維持管理、災害調査、応急復旧においてロボットを活用している。建設分野で導入を促進するには、ロボット技術のシーズを把握し、現場のニーズを開発者に提供

することが重要となる。コンソーシアムは、その双方をマッチングする場となる」と設立の趣旨を説明した。次いで、福田代表は「中部地区はロボットを始めとする産業の集積地である。国が進めるロボット新戦略の実現に向け、活動していきたい」と

意欲を示した。議事では、増電郎国交省総合政策局公共事業企画調整課長補佐が「次世代社会インフラ用ロボット開発・導入の推進」、福田代表が「次世代ロボットの研究開発状況」をテーマに、それぞれ講演した。また、富田茂キャリアオ技研社長が「無人飛行ロボットを活用した取り組み事例」、高島和幸コマツレンタル中部営業部部長補佐が「コマツスマートコンストラクション」、歌川紀之佐藤工業技術研究所 上席研究員が「空中放射音波による遠距離非破壊検査技術」を紹介した。今後は、開発者と施設管理者の情報交換や現場検証を支援するほか、関連技術の講習会などを開催する方針だ。

また、富田茂キャリアオ技研社長が「無人飛行ロボットを活用した取り組み事例」、高島和幸コマツレンタル中部営業部部長補佐が「コマツスマートコンストラクション」、歌川紀之佐藤工業技術研究所 上席研究員が「空中放射音波による遠距離非破壊検査技術」を紹介した。